

平成20年6月23日

関係者 各位 様

日本身体障害者水泳連盟
技術委員長 桜井 誠一

2008年J P大会参加資格などの注意事項

2006年J P大会以降I P C国際規則に準拠した大会として実施していますが、参加資格などの問い合わせがありますので、念のため、注意事項をお知らせします。

J P Cから出されている大会実施要綱も良くご覧下さい。

- 1、 参加資格・制限における「財団法人日本障害者スポーツ協会から推薦を受けた者」と記載されている推薦は、本大会においての標準記録を達成していることが明らかであって、何らかの合理的な理由によって、要綱記載の大会に出場していない場合等特別な事情を考慮して救済する特例である。この推薦を受けるには、選手は競技団体へ申し出て必要な手続きをとること。
- 2、 身体障害者について、標準記録を達成していない19歳以下の選手の意欲向上のため、オープン参加として50m自由形の種目を新たに設置した。(安全性確保のため、2008年度日本身体障害者水泳選手権大会標準記録の達成が条件)
- 3、 F C Sクラス分けにおいて、S10・SB9・SM10をオーバーしたと認定された身体障害者手帳を所持する選手のクラスはS21・SB21・SM21とする。
- 4、 視覚障害者のクラス分けにおいてS13・SB13・SM13をオーバーしたと認定された身体障害者手帳を所持する選手のクラスはS21・SB21・SM21とする。
- 5、 2005年J P大会まで実施していたS1浮き具使用は廃止されている。浮き具での出場はできない。
この救済措置として日本選手権に浮き具付種目(Fクラス)を設け50m自由形、50m背泳ぎの2種目を実施している。
- 6、 F C Sクラス分けにおいて、クラス分け不能と判定された選手は出場できない。
(別紙1参照)I P C競技規則によれば、この選手がクラス分けを再度受けるためには、I P Cへの抗議手続きなどが必要である。

- 7、 競技規則についてF I N Aで改正されている 平泳ぎのスタート及び折り返し時のドルフィン、背泳ぎのスタート、リレーの引継ぎなどは、2008年6月現在IPC競泳競技規則が改正されていないため、現時点では、適用されるかどうかは未定である。大会時に改めて知らせるので注意すること。
- 8、 FCSクラス分けを今回受検すべき選手（既受検者含む）については、別途通知する。クラス分けは7月19日（土）を予定している。通知された選手は指定された日時でクラス分けを受けなければ大会に出場することはできない。クラス分けスケジュールの変更は他の選手にも影響をきたすため出来ないので注意すること。
- 9、 19歳以下でオープンの50m自由形のみ参加する選手について、FCSクラス分けは実施しない。

別紙1 注意事項4 クラス分け不能選手の取り扱い

IPC水泳競技規則抜粋

「GN1.3

選手がクラス分け不能と判断された場合、そのステイタスはクラス分け不能Pパーマネントステイタスとなり即時に有効とされる。その選手は、その競技会中、それ以降のすべての種目から排除される。クラス分け不能の選手は、それ以降のいかなるIPC Swimming 競技会および/またはIPC Swimming 競技規則のもとに実施される競技会(国内選手権など)にエントリーすることは許されない。」

補足

クラスを獲得するには、クラス分けを受検しようとする大会の3ヶ月前までに国際パラリンピック委員会（IPC-SW）に抗議の手続きを行い所定の抗議料を支払い、再クラス分けテストを受けることとなります。ただし、国際クラス分け委員の条件などによってテストできる時期、場所など条件も変わりますので事前に良く連盟にご相談下さい。

（JP大会で再クラス分けテストを実施してもらえない保証はありません。）

なお、受けた結果再び「クラス分け不能」となれば、それが確定クラスとなり、以降の大会に出場することができなくなります。